

矯正歯科治療に伴う一般的なリスクや副作用について

2018年に公布された医療法施行規則に基づき、矯正歯科治療に伴う一般的なリスクや副作用をホームページ上で記載することが必要になっております。すべての医療行為はメリットとデメリットがあり、歯科矯正治療においても同様です。審美的かつ機能的な歯ならびには大きなメリットがある反面以下のような一般的なリスクや副作用があることをご理解いただいたうえで治療となります。

なお、ご不明な点をご遠慮なくご質問くださるようお願いいたします。

-
- 最初は矯正治療による不快感、痛み等があります。数日間～1、2週間で慣れることが多いようです。
 - 歯の動き方には個人差があります。そのため、予想された治療期間が延長する可能性があります。また短縮する場合もあります。
 - 装置の使用状況、顎間ゴムの使用状況、定期的な通院等、矯正治療には患者さんの協力が非常に重要であり、それらが治療結果や治療期間に影響します。
 - 治療中は、装置がついているため、歯が磨きにくくなります。むし歯や歯周病のリスクが高まりますので、丁寧に磨いたり、定期的なメンテナンスが重要です。また、歯が動くとき隠れていたむし歯が見えるようになることもあります。
 - 歯を動かすことにより歯根が吸収して短くなる場合があります。また、歯ぐきがやせて下がることがあります。
 - ごくまれに、歯が骨と癒着して歯が動かないことがあります。
 - ごくまれに、歯を動かすことで神経が障害を受けて壊死することがあります。
 - 治療途中で金属などのアレルギー症状がでることがあります。
 - 治療中に「顎関節で音がある、あごが痛い、口が開けにくい」などの顎関節症状が出る場合があります。

- 歯の動きによる様々な問題により、当初予定した治療計画を変更する可能性があります。
- 歯の形を修正したり、咬み合わせの微調整を行ったりする可能性があります。
- 矯正装置を誤飲する可能性があります。
- 装置を外す時に、エナメル質に微少な亀裂が入る可能性や、被せた歯（補綴物）の一部が破損する可能性があります。
- 装置を外れた後、保定装置を指示通り使用しないと後戻りが生じる可能性が高くなります。
- 装置を外れた後、現在の咬み合わせに合った被せる歯（補綴歯）や虫歯の治療(修復物)などをやりなおす可能性があります。
- あごの成長発育により咬み合わせや歯並びが変化する可能性があります。
- 治療後に親知らずが生えて、凸凹が生じる可能性は文献ではないとされていますが、加齢や歯周病等により歯を支えている骨がやせると咬みあわせや歯並びが変化することがあります。その場合、再治療等が必要になることがあります。
- 矯正歯科治療は、一度始めると元の状態に戻すことは難しくなります。

(日本矯正歯科学会ホームページより抜粋)